

一 幅員 拾九尺

一 高 拾五尺五寸

一 卷立 混凝土、プロックヲ用ヒ厚五サヨリ  
二尺迄トシ地質ノ硬軟ニ依リ按配ス

(二) 取附道路

一 延長 貳拾貳町貳拾七間四

一 幅員 參間

一 最急勾配 拾八分ノ一

一 最少屈曲半径 貳拾間

(三) 工費

金拾四萬四千九百拾貳圓 隧道費

(一) 間當り七百貳拾四圓)

金九萬六千貳百拾五圓 道路費

(一) 間當り七拾壹圓四拾壹錢)

本工事の開通式は、客年七月、盛大に舉行せられた、積年の宿病が、一朝に快癒した様な、嬉びを以て、全町民は、此の日踊り狂つた。

兩津港と相川町との間の自動車乗客賃金は、從來貳圓五十錢(片道)であつたが本工事の竣成とともに、一躍貳圓に値下げされた、將來相川町の、享くる利益の片鱗が、之の一事を以て窺はれるであらう。

# 錦櫻橋鐵部架設工事の概要

群馬縣道路技師 佐藤 三四郎

一 橋型 ラベツテッド ワーレン ツラス

一 橋長及幅員 七拾六間五分 有効幅員 二十尺

一 一徑間の大さ及其の數 百五十呎 幅二十三呎 高二十四呎 三連

一 一徑間の組建鋼材量 約八十六噸

一 架設期間 自大正十三年十月二十二日 至同 年十一月十一日

一 架設方法 三徑間の内左右二徑間は前後道路にて組建河

中に曳出し橋脚上に架設し中央徑間は現場にて組建たり

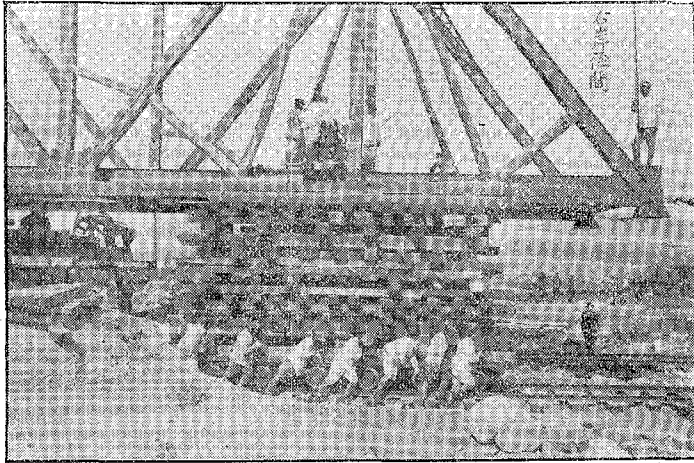
一 架設者 千葉縣津田沼鐵道第二聯隊

本縣に於ては從來鐵橋架設には凡て現場に於て組建を爲し昨夏利根郡沼田町附近戸鹿野鐵橋架設を鐵道第二聯隊

に於て施行し、更に同聯隊大正十三年度鐵道野外演習として特に陸上組建及曳出し架設並現場組建橋梁の扛起

(組建後)

既定の  
高に扛  
上)作  
業の爲  
聯隊長  
新原工  
兵大佐  
池田工  
兵中佐  
其他將  
校下士  
以下約  
六百人  
來桐、  
十月二  
十二日



右岸徑間

より組建用器械器具鐵軌條枕木等貨車三十七輛分の材料

運搬に着手し同月二十九日より十一月十日迄十三日間鋼材組建及架渡に従事し同月十一日歸隊せり。其の現場作業人員左の如し。

徑間	組建足場引出足場	組立	扛引出	計人時	組建日數	曳出日數
右岸	スゴライア 架架 ンドル	假橋臺サ	扛起	八時 二、五三〇	八日	一日
中央	八時 二、三四七	九時 五、三四五	扛起	四時 一、〇七〇	八時晝夜 八、七六〇	八日
左岸	八時 一、四六四	八時 二、七〇〇	扛起	五時 一、四五五	八時晝夜 八、三三五	六日

注意 人時とは一人一時間とす一人一日八時間とせば三千百十一人八分となるも、現場作業以外の附屬人員を加ふれば延人員約一萬人に達せり。

各徑間組建方法左の如し。

右岸徑間 舊橋詰より右方道路に沿ひ水平廣軌道を敷設し臺車を置き鐵部組建は先臺車上下臥材を置き次に橫桁及小桁を之に取付け、其の上に複線狹軌道を敷設し杉丸太製簡易移動檯臺車を運轉し之に依りて堅柱及斜材を釣り上げ組建次に上臥材及端斜材並入口及水平ブレーシングを取付け以て全部の組建を了せり。

架橋位置は豫め河床を水平に均し前同様水平複線廣軌道を

敷設し臺車を置き其の上を受臺を設け橋體を陸上より押進め

前記受臺に

載せ最初は

陸上と河中

とにて橋體

を押し出し陸

上の部分臺

車は順次脱

線装置とし

漸次進行し

て最早構桁

二分格を餘

すに至れば

別に河中軌

條上を受臺

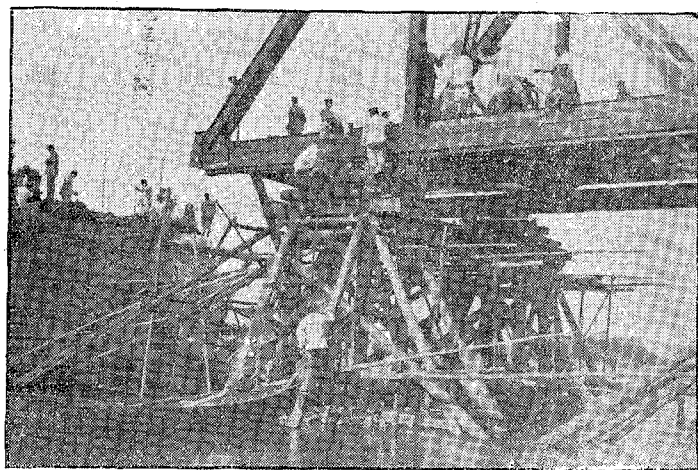
を置き前記

受臺と都合

二ヶ所にて

支持し橋體を正確なる位置迄推進し最後に扛重器を用ひて正

確なる位置に橋體を据付けたる推進力は人力なれば百人を要



左岸徑間

しウキン捲なれば貳臺にて移動せり。

中央徑間 舊橋脚を利用し構桁一分格毎に受脚柱を建て構桁八分格の處四分格を組建之を既定の高迄扛上し然る後前後の四分格を取付け以て組建を了せり鐵材組建は移動檣臺車を運轉し各構材を釣上げたり。

左岸徑間 右岸徑間同様道路に沿ひ水平廣軌道を敷設し臺車を置き其の上を下臥材を組建其の他の鐵材組建は道路内に固定せる丸太足場を作り之にて各構材を釣上げ順次組建濟の部分を押出し斯くして全部組建を了せり。

架橋位置には豫め三ヶ所の脚柱を建て其上に轉子<sup>トウリ</sup>を装置し組建橋體の下臥材下端には補強装置を施し軌條を緊結し前記轉子に載せ其の上を滑動せしめ橋體を順次送り出せり推進力は初め人力にて七十人を要し辛うじて動かし後ウキン捲のみ五臺使用し既定の位置迄送り出し最後に扛重器を使用し正確なる位置に橋體を据付けたる。